老舎小説の食譜 ― 長編小説『離婚』編（上）

齋 藤 匡 史
Tadashi SAITOU

はじめに

老舎文学の特徴の一つに「伝統的物語文学」との類似性がしばしば取り上げられる。語り手としての『作者』や時々顔を出す作家自身が語る物語は，長編にしろ短編にしろ現実サイズ，等身大で，読者を話題の身近さ，真実性で引きつけようとする要素を持つ。人物はこれなる風態で，かくの如き立居振舞と示し，読者はその人物評価の判断材料として受けとめる約束ごとが守られている。情景描写，場面設定，人物の持ち物まで，きちんと約束ごとに従っている。

今一つの老舎文学の特徴ともいうべきものは「飲食，食品」である。「飲食，食品」は，物語展開上必要な場面･背景を飾る道具（本稿では「景物」の語を使う），また比喩，話題として取り上げられる場合もあるが，芸術加工や表現上欠くことのできない食品，換言すればそれ自身，登場の必然性を持つ「飲食，食品」も作品に見られる。これらの存在が老舎文学の世界を豊かなものに形作る特徴となっている。本稿は長編小説『離婚』に現れる「食品」を収録し，物語展開，文脈におけるそれらの意味を分析，考察するものである。

『離婚』食譜

『離婚』は，長編小説『大明湖』，『猫城記』の失敗の後，作者が原点である舞台「北京」と「ユーモア」の作風に立ち戻り，代表作『駱駝祥子』執筆に至る創作上転換点にあたる長編小説であることは知られるところである。登場する食品は，晩秋の「羊のシャブシャブ」から，翌夏の「緑豆粥」まで北京の風物が描写されている。

『離婚』は当初，良友文学叢書として1933年8月初版が出され，新中国成立後の1953年9月，著者が大幅な改訂を行い，上海の晨光出版公司から出版（『離婚』伊藤敬一訳「中国の革命と文学4　老舎・曹禺集」は，これを版本としている。老舎はこの版本で「北平」を「北京」に改めている）した。さらに1963年に著者が校訂と若干の改訂を行い，人民文学出版社から出版した。本稿はこの1963年本を収録した『老舎文集』第二巻（1981年人民文学出版社）をテキストとしている。

「老舎小説の食譜―長編小説『駱駝祥子』編」を2001年1月に執筆してから，すでに8年の光陰が過ぎ去った。本来の計画では，毎年，数編を上梓し続けるつもりであったが，嬾惰な上に諸事に忙殺され，二編目が今日ようやく日の目を見た。『離婚』の「食」は，名作といわれる『駱駝祥子』に比べて，存在感がやや薄いことが本稿から見てとれる。『駱駝祥子』編では，「きわめて柔らかい豆腐」とすべきところを，「『老豆腐』はにがりを入れないで作った柔らかい豆腐」などと噴飯ものの誤記述があったため，本稿は慎重に記述を進めたつもりであるが，完璧はありえず，是非ご叱正を頂きたい。

・訳文出自は，『離婚』伊藤敬一訳「中国の革命と文学4　老舎・曹禺集」昭和47年5月　平凡社刊を引用した。引用時に必要に応じて（　）で筆者註を加えた。数字は所在頁。訳文に１か所誤植があり，訂正した。

・原文の食品が訳文で意訳されている場合などには，原文を付した。
・食品名は原文を【　】で示し，漢数字で「段」と「章」を，算用数字で「頁」を示した。訳文末の数字は「頁」を表す。また訳文で食品が註扱いとなっているものは，註を参照して説明を付した。
・食品名は登場順に全て収録したが，同一項目は登場順にまとめて記した。
・註解は◆で示した。文中の日本語訳は，前項の伊藤敬一訳を引用したが，必要に応じて下記の参考文献からも引用した。食品の解釈はこれらの間に相違がある場合は，他の文献を参照し，筆者が勘案して記した。また特に注釈を加える必要のない食品も収録している。
・飲食，飲酒の叙述のうち純然たる行為・動作については割愛した。

参考文献：

・老舎小説全集1『張さんの哲学　離婚』竹中伸訳　学習研究社　1982年1月刊
・『老舎事典』中山時子編　大修館書店　1988年12月刊

1,【果子】guǒzi　第一，三 152-11

・張兄貴の知っている山，といえば西山（北京西郊の連山）であり，北山（北京北方の湯山や十三陵を指す）からやってくるくだものの売りを見ると，何だか摩訶ふしぎな気がした。6

2,【茶】chá　第一，三 153-14

3,【茶】chá　第一，三 153-15

・たとえば，誰かが彼にお茶をつごうとする，すると彼はかならず立ち上がって，両手で受けようとし，それがまるで，わざと人にお茶をひっかけるような結果になり，自分も手にやけどする。彼はあわててハンカチをとりだし，ひっかけたお茶をふこうとするが，手のはずみで相手の鼻をなぐる結果になる。6

◆行為。

4,【羊肉锅子】yángròu guǒzi　第一，四 156-13

5,【肉】ròu　第一，四 156-13

6,【茶】chá　第一，四 156-13

7,【瓜子】guāzi　第一，四 156-14

8,【点心】diǎnxīn　第一，四 156-14

・「張はすぐ帰ってきますわ。今夜は羊の火鍋子（ホーコーツ）（冬の料理）を食べましょう。わたしは肉を切ってきますからね。ここにお茶と，瓜子児（クワツル）（西瓜か南瓜のたねを乾かして味付けしたもの）と，点心（テンシン）（小麦粉で作った軽いつまみもの）がありますから，御自分で遠慮なく召し上がれ。…」9

◆「羊肉锅子」は，「涮羊肉shuànyángròu」と呼ばれる。「火锅子」は，本来北京で用いられるシャブシャブ用の炭火鍋を指し，転じて「鍋料理」を表す。煙突一体型の鍋に湯（鶏スープでも可）を入れ，葱，生姜片，乾燥棗，干し蝦を加える。「たれ」は，芝麻醤ベースに，醤油，辣油，ゴマ油，ニラペースト，香酢，甜麺醤，紹興酒，腐乳（豆腐の漬物，とうふよう），刻み葱，香菜，蝦のアミなどを好みで調合する。羊肉のほか，凍豆腐（一度凍らせて水抜きした豆腐），春雨，白菜，ホウレン草，羊の肉団子，羊肉餡の餃子なども食す。冬の北京の季節料理の代表であったが，今日では一年中食すことができるし，北京以外の都市でも食されるようになった。「季節のごちそう」を科員にふるまう，張兄貴の「格」を示す食品。

◆道具，象徴。

◆「点心」は，お菓子やまんじゅう，「餅bǐng」の類から，餃子や麺までその概念が幅広い。ここ

では食事の前に食するお菓子。

9,【点心】diǎnxīn　第一，四 156-18

10,【瓜子】guāzi　第一，四 156-18

・腰をおろしたが，奥さんのお菓子には手をつけず，瓜子児を一つだけつまんで，指先であそんでいた。 9

11,【火锅】huǒguō　第一，四 156-22

・気候からいえば，まだ火鍋子がほしいほど寒くはなかった。だが季節のはじめに，しゅんの食物や走りの着物を楽しむのは生活の趣味だ。9

◆話題。

12,【羊肉火锅】yángròu huǒguō

第一，四 156-23

13,【打卤面】dǎlǔmiàn　第一，四 156-23

14,【年糕】niángāo　第一，四 156-23

・張兄貴は，羊肉火鍋子（ヤンロウ）や，打滷麺（タールーメン）（あんかけうどん，夏の食物）や年糕（ネンカオ）（餅米の粉で作った餅，正月の食物）や，毛皮の長衣，風除けのめがね，爆竹などすべて人に先んじてやることにしていた。9

◆江南の「年糕」はうるち米で米粉作り蒸して餅とし，炒めたりスープにしたりするが，北京は「餅（もち）」とは違い菓子一種のような食物，全国各地で異なる。

◆比喩，話題。

◆「打滷麺」は，スープにキノコ，木耳，金針菜（ユリの花）をいれ味付けしてとろみを加え，太い麺にあんかけしたもの。

15,【火锅】huǒguō　第一，四 157-1

・張兄貴の家の中のかざりつけも，すべてこの「はしり」の火鍋子や天気予報と同じで，応接間には，植木鉢のぼけの花がかざられ，水仙もすでに芽をだしていた。10

16,【羊肉】yángròu　第一，四 157-10

・李君は，張兄貴がいささかうらやましく―ほとんど嫉妬に近いものを感じた。そして，それゆえ張奥さんに敬意を感じた。彼女はいま羊の肉を切っている。……　10

17,【小干虾米】xiǎogānxiāmǐ　第一，四 157-14

・彼には狐の毛皮裏の長衣の値段から乾えびの値段まで全部わかる。10

18,【羊肉】yángròu　第一，四 157-21

19,【羊肉】yángròu　第一，四 157-22

・ちがう！こんな家庭は一つの重荷だ。張兄貴のような―常識のかたまり，生きた物価表―でなければ，こんな重荷をよろこんで背負うなんてことはできまい。しかも，背負うことによって，たとえばテーブルをふいてもらうとか，羊の肉を切ってもらうたのしみ，婦人の地位を一斤の羊肉より安いものにしてしまうような，そんなたのしみを見いだすことはできまい。張奥さんはかわいそうだ！10

20,【茶】chá　第一，五 158-8

21,【茶】chá　第一，五 158-9

・「…さあ，掛けたまえ！一日中，何ということはないが，むやみにいそがしくってね。さあ，掛けたまえ。お茶ははいっているかい？」

李君はあわてて腰をおろし，お茶があるかどうか，茶碗の中をいそいでのぞいた。11

22,【羊肉】yángròu　第一，五 158-16

23,【卤虾油】lǔxiāyóu　第一，五 158-17

・「今日のこの羊の肉はね，食べたら，きっとうまいと感心するぜ。えびの醤油（滷蝦油（ルーシアーユー）といって，えびをすりつぶして塩で味付けしたものを入れたたれ）だって，北京で買えるいちばん上等の奴なんだ。一口なめてみたが，まったく文句なしだ。…」11

◆えびの塩辛，たれ。

24,【涮羊肉】shuànyángròu　第一，五 159-2

・彼は依然心の中であれこれ準備して張兄貴の取り調べを待ちかまえていたが，張兄貴は，どうやら羊の肉の水たきが腹に入らぬことは，一生の大事を口にしないつもりらしい。12

25,【涮羊肉】shuànyángròu　第一，五 159-3

26,【饺子】jiǎozi　第一，五 159-4

・張兄貴の考えでは，もし政府が新暦元旦に，全国人民に羊の肉の水たきなり，あるいは餃子（ぎょうざ）でもふるまってくれたら，旧暦使用禁止命令なんてだす必要もないのだ。12

27,【火锅】huǒguō　第一，六 159-1

28,【葱花】cōnghuā　第一，六 159-1

・火鍋子（ホーコーツ）からねぎの千切りに至るまで，なにもかもおめでたい気分につつまれていた。李君はこれまで，こんなに豊富で，気持のよい食事をしたことがなかった。12

◆財政所の上役である張兄貴は，李君が田舎にいる妻との「離婚」を考えているのではないかと疑い，その腹を探ろうと「御馳走」（「一度の羊の水たきは，五，六円かかる」，1920年代中期～30年代末，全国の物価は安定していたといわれる。役所の一般職員は，等級によって当然異なるが，50元～200元である）で歓待する。李君は公寓（アパート）で一人暮らしの身，日頃，夕食はボーイにいいつけてせいぜい「鸡子炒饭（タマゴチャーハン）」を食べるくらいであり，家庭の温かさを感じた。

29,【羊肉汤】yángròutāng　第一，六 159-4

30,【绿香菜叶】lǜxiāngcàiyè　第一，六 159-4

・羊の肉のスープ―このキラキラ光る油と香りよい青々とした野菜を浮かべた，幻想的な，詩的な，動植物をあわせてつくった天地の精華―に李君の口はなめらかになり，言葉はまるで滑車からすべり落ちるばかりになった。12

◆「香りよい青々とした野菜」ではなく，「香菜（コリアンダー）」。

31,【羊肉】yángròu　第一，六 159-15

・張兄貴はパイプに火をつけた。たばこの香りと羊のあと味が口の中であわさって一つの新しい味となり，生命のほほえみが感じられるようだった。12

32,【胡萝卜】húluóbo　第二，一 162-5

・張奥さんは，ちょうど食器を洗っていたが，にんじんのようになった手をふきふきやってきて，ドアを開けると，…　14

33,【蘑菇】mógū　第二，一 162-19

・「ええ，コネで合格したんです。ですからあの人が医者の看板をだしてからというもの，へまをやらかさなきゃよいがと，わたしはひやひやしていたんです。」14

◆「怕出了蘑菇」面倒なことが起こるの意。

34,【涮羊肉】shuànyángròu　第二，二 164-23

35,【卤虾油】lǔxiāyóu　第二，二 164-24

・「そのとおり，ぼくのはすべて常識さ。だが常識をはなれたら，どうして生きて行ける？羊の水

たきを食うのに，えびの醤油なしでも，うまいというのかね？ハッハハ……」 16

36,【涮羊肉】shuànyángròu　第二，二 165-5
37,【羊肉】yángròu　第二，二 165-6
・張兄貴と口をきかなかったら，どうも，あのみごとな羊の水たきに対して申しわけない。常識は大切だ。彼は心中苦笑した。羊を食べるだけ食べてさっさと帰っては常識がなさすぎる！　16

38,【涮羊肉】shuànyángròu　第二，二 166-18
・なんということだ！もっと勇気をだして問題を解決したまえ。物事が思いどおりになれば，君もきっと妄想するのをやめて，羊の水たきを追及—新語を使えば—するようになるよ，ワッハハ！18

39,【涮羊肉】shuànyángròu　第二，二 168-2
・張兄貴の熱意は無限であり，能力も無限だ。羊の水たきを御ちそうになった以上，たとえ牛と結婚しろといわれても，いうことをきくより仕方がない！　19

40,【羊肉片】yángròupiàn　第二，三 168-3
・丁（チン）さんも，お相伴で，残りものの，あまりきれいでない羊の肉をかたづけていたが，彼は一言も口をきかず，ただ口を勇ましく動かしていた。19

41,【小米】xiǎomǐ　第二，三 169-4
・丁さんは張家の居候であるが，ほかにも居候がいる。—何羽かのうぐいすである。彼の小鳥は，べつに街へ散歩につれて行かなくても，粟をすこし食べさせておけば，それで満足しているらしい。20
◆原文「黄鳥」，カナリアか。

42,【茶叶】cháyè　第二，三 170-13
43,【茶叶】cháyè　第二，三 170-14
44,【白面】báimiàn　第二，三 170-14
・「…　親戚や友達は，ほとんどお金を払わないで，節季や年末になってからお茶なんかを持ってくるでしょう，ですから家には，いつもお茶のほうが小麦粉よりたくさんあるんですよ。でも，お茶ばかりのんでて御飯を食べないわけにはいきませんもの！どんな商売でも，医者にだけはなるもんじゃありませんわ。…」 21
◆話題。

45,【小苹果脸】xiǎopíngguǒliǎn 第二，三 172-16
「…でもね，あの子のよこ顔ときたらほんとうにきれいなんですよ！ほっぺたはりんごのようだし，黒い髪がふさふさしていてね，…」 23
◆比喩。

46,【香蕉糖】xiāngjiāotáng　第二，四 174-17
・彼は四本のかわいい手をなでてみたいと思った。四本の丸っこく，やわらかく，あたたかく，バナナキャラメルのにおいがする小さな手！　25
◆薄荷と砂糖が原料で，乳白色の飴つぶを菱型の紙袋に包んだもの。包み紙の形状がバナナに似ているからの名か。

47,【猪肉】zhūròu　第三，一 177-12
48,【羊肉】yángròu　第三，一 177-12
49,【牛肉】niúròu　第三，一 177-12
50,【鸡】jī　第三，一 177-12
51,【鱼】yú　第三，一 177-12
52,【蔬菜】shūcài　第三，一 177-12
53,【鳝鱼】shànyú　第三，一 177-13
54,【泥鳅】níqiū　第三，一 177-13
55,【泥鳅】níqiū　第三，一 177-14

・豚肉，羊肉，牛肉，生きているにわとり，死んだにわとり，死んだ魚，生きている魚，さまざまな野菜。豚の血とねぎの皮が地面に凍りついている。たくさんのうなぎやどじょうが，せまい水の中でひしめきあい，頭の上に氷がのせられている。どじょうは誰かに催眠術でもかけられたように目を大きく見開いている。27

◆田舎の家族を迎えに行くかどうか，思案しながら，当もなく北京の街を歩く。西四牌楼の市場までくると，人々は生存のために，食を得んがためにうごめいている。その有様を目睹し，現実に生きる道を選ぼうと覚醒する。

◆「鱔魚」は「田うなぎ」で，泥鰌よりかなり長い，初夏からが旬，炒めものにする。景物。

56,【拔了毛的鸡】bále máo de jī
第三，一 177-17

57,【活鸡】huójī　第三，一 177-17

・羽毛をむしられたにわとりと生きているにわとりがとなりあわせに置かれ，生きている方はかごの中でけんかをしたり，ときの声をあげている。27

58,【猪肠】zhūcháng　第三，一177-20

59,【肠子】chángzi　第三，一 177-20

・大きな痩せ犬が，掛けてあった豚の腸をひっさらって，東へ逃げようとする，肉屋が立ちふさがったので，腸を地面に放りだす。肉屋はそれをひろいあげ，もと通り鉄のかぎにひっかける。28

60,【面包】miànbāo　第三，一 178-2

61,【面包】miànbāo　第三，一 178-2

62,【面包】miànbāo　第三，一 178-3

63,【面包】miànbāo　第三，一 178-4

・李君はこれがはじめての見物で，驚きもしおもしろくもあった。おかげで彼はいささか真実がつかめたようだ。これこそ生命だ！それは食べる，何でも食べる。人はたしかにパンのために生きている。だからパンの不平等は根源的な不平等だ。詩なんぞはくそくらえ！わが家のパンを守るため他人を餓死させることも，パンの争奪のために戦争することも必要なのだ。28

◆象徴。

64,【炒木樨肉】chǎo mùxū ròu　第三，一 178-7

65,【豆腐汤】dòufutāng　第三，一 178-8

・胃袋のための戦争こそ最も切実な革命であるということも，そのとおりだ。おれだけがまちがっていた。おれはアパートに住みなれ，炒木犀肉（チャオムーシユロウ）（玉子と肉をいためた料理）や豆腐湯（トウフータン）（豆腐入りスープ）がアパートに産するものと思いこんでいた。28

66,【面包】miànbāo　第三，一 178-11

・おれの前には，二つしか道がない。空しい夢を追うべきか，現実に生きるべきか！後者の道はさらに二つにわかれる，自分のパンのために生きる道と，民衆のパンのために生きる道とである。28

67,【热豆浆】rèdòujiāng　第三，一 178-14

68,【杏仁茶】xìngrénchá　第三，一 178-14

69,【枣儿切糕】zǎor qiēgāo　第三，一 178-14

70,【面茶】miànchá　第三，一 178-14

71,【大麦粥】dàmàizhōu　第三，一 178-14

72,【切糕上的豆儿】qiēgāoshang de dòur
第三，一 178-15

73,【豆浆】dòujiāng　第三，一 178-17

・牌楼（街角の飾り門）の下では，熱い豆腐汁，杏仁茶，棗入りのむし餅，栗の汁粉，麦粥などがポッポと湯気を立て，独特のにおいを発散してい

る。むし餅に入っている豆が，切口のところに魚の目玉ようにならんでいて，人が食べにくるのを待っているようだ。

李君は立ったまま，そこの豆腐汁を一杯のんだ。28

◆豆腐汁ではなく，豆乳。「栗の汁粉」は，キビを湯でこねた食品。「杏仁茶」は，アンズの実（さね）を粉末にし，湯で溶いた食物。

74,【果子】guǒzi　第三，二 179-14

75,【香蕉】xiāngjiāo　第三，二 179-15

・結局，東安市場でくだものをすこし買った。バナナなどは北京の特産でないことを承知の上でである。29

76,【炒豆】chǎodòu　第三，三 180-14

…事実，しゃべっているとき，かれの五官はたしかに勝手に場所を移動させる。目玉はまるで炒り豆のように顔中を跳びはねる。30

77,【热汤】rètāng　第三，三 180-20

・「李君は『女房』を迎いに行ったんだぜ！」趙科員の目は，熱いスープでのどをやけどしたときのようにほそめられた。30

78,【酱肘子】jiàngzhǒuzi　第三，三 181-5

・呉さんというのは，腰をまっすぐ伸ばし，飯茶碗ほどもあるこぶしで羊の毛の筆をまっすぐに持ち，味噌漬けの豚の足のような字を書く。30

◆醤油煮の豚足。

79,【茶叶】cháyè　第三，三 181-16

・「みんなでだしあって，お茶を二斤買っていくんだ。…」31

80,【酱鸡】jiàngjī　第三，四 184-4

81,【鸡】jī　第三，四 184-5

82,【酱鸡】jiàngjī　第三，四 184-11

83,【酱鸡】jiàngjī　第三，四 184-23

・五時すぎになった。張兄貴が家に帰らねばならぬ時刻だ。彼は四牌楼に行って醤鶏（鶏肉の味噌漬け）を買い，奥さんへのおみやげにした。33

◆味噌漬けではなく，醤油煮

・多分彼女が，おれの綿入れズボンを間もなく仕上げてくれるころだ。ここはひとつ醤鶏を買って慰労せずばなるまい。33

・張兄貴は手に持った蓮の葉の包に目をやった。この醤鶏はなかなか大きい。33

・…必ず，買うとも買わぬともつかぬ態度で，チラリとぬすみ見することだ。花売りは，このチラリの一瞬を逃さず，パッと張兄貴の目をとらえた。張兄貴は糸をたぐりよせるように，視線を手に持った醤鶏にもどして，通りすぎた。34

84,【芥菜头】jiècàitóu　第四，一 185-2

85,【小米】xiǎomǐ　第四，一 185-2

・李（リー）君が，奥さんや二人の子どもをはじめ，夜具，おしめ，旅行用の網かご四つ，大小七つのふろしき包，雨傘二本，家で漬けたからしの根の漬物のはいった油簍（ユーロー），かめに半分ほど入っている新粟，などを全部，いったいどうやって一気にはこんできたか，いまもってひとつの謎である。34

◆からし菜の根の漬物。

86,【小米】xiǎomǐ　第四，一 185-14

87,【小米】xiǎomǐ　第四，一 186-3

・一日中忙しい思いをしたのに，傘はまだ二本とも庭に投げだされている。粟は床一面にこぼれ，四つの網かごはふたが全部開けっぱなしだ。35

・四時前に，張兄貴がきた。…彼が指で左右を指

し示すと，床の上の荷物はきれいになくなり，こぼれていた粟までがすっかりかめに返った。35
◆景物，話題。

88,【茶】chá　第四，一 186-17
89,【茶】chá　第四，一 186-18
90,【茶】chá　第四，一 186-19
・彼が帰ったあと，李君は食事をださなかったことに気づいた。だが飯はどこにあるのか？しかし，少なくとも，お茶ぐらいはだすべきだった！真中の部屋を見まわすと，角テーブルの上に，きゅうすと茶碗が六つ，陶器の盆にのっていて，誰かがお茶を入れてくれないかと人待ち顔である。誰がお茶を入れるべきか？もし張兄貴の家なら，誰がお客にお茶をだすか？李君は眉をしかめた。35
◆田舎から戻って，新居に荷を解いたが，部屋が片付かないうちに張兄貴がやってきたが，李夫人は応対もできなかった。そのことで李君はいっそう癪にさわった。象徴。

91,【枣儿窝窝】zǎorwōwō　第四，一 186-22
・ちょうどそのとき，丁さんも帰るといってきた。子どもたちが丁さんの手をひっぱって帰そうとしない。
「ここでご飯を食べて行きなよ，かあちゃんのなつめ入りのマントウはとってもおいしよ」と男の子がいう。35

92,【茶】chá　第四，二 187-14
93,【茶】chá　第四，二 187-15
94,【茶叶】cháyè　第四，二 187-17
95,【茶叶】cháyè　第四，二 187-21
96,【茶叶】cháyè　第四，二 188-1
・李君はまだ眉をしかめていた。彼女をジロリとながめ，「お茶ぐらい入れられないか」といいかけたが，そこは腹の虫をおさえ，「お茶をついでくれ」といった。36
・「ほんとに忘れていたわ，ほんとに！」李夫人は笑って，歯をすっかりむきだした。「お茶の葉はどこ？」彼女は，北京全体に聞くような大きな声をだした。36
・彼女は大声でしゃべった罪をつぐなうように，お茶の葉を一生けんめいさがし，やっと見つけた。「もうひとつ忘れていた，お湯がないわ！」彼女はお茶を見つけたせいか，また大声の罪を犯した。「声を小さくしろってば！」李君は歯ぎしりし，眉を小山のような形にしかめた。36，37

97,【落花生】luòhuāshēng　第四，二 189-17
98,【大海棠果】dàhǎitángguǒ 第四，二 189-17
・「とうちゃん，落花生と海棠の実を買っておくれよ」37

99,【芝麻酱烧饼】zhīmajiàng shāobǐng
第四，三 189-1
・李君は羊肉屋のとなりにでているゴマ味噌焼きの焼餅（シャオビン）（小麦粉を丸型にし，片側にゴマをつけて焼いたもの）に注意を向けた。焼きたてで，こんがりこげたゴマが，ちょうど血を吸ってふくれた蚊のおなかのようだ。38
◆竹中訳では訳注に「芝麻醤焼餅　胡麻と味噌とをつけて焼いた小麦粉の団子で，大衆向き主食品」とあるが，「芝麻醤」は，成型していく際に生地に数回塗りこみ，表面にさらに炒り白胡麻をまぶす。

100,【代乳粉】dàirǔfěn　第四，三 189-16
101,【落花生】luòhuāshēng　第四，三 189-17
102,【花生米】huāshēngmǐ　第四，三 189-17
103,【蜜饯海棠】mìjiànhǎitáng　第四，三 189-19

・子どもに食べさせるには，当然やわらかくて消化のよいものでなければならない。…粉ミルクにしようか，そんなものはのんだことがない！目の前に木の実を売る店がある。落花生を忘れてはいけない！落花生を一斤買う。一斤買えば恥ずかしくない買物だと思ったが，値段を聞くとたった十五銭だ。気の毒ででられない。こんなにたくさん電灯をつけた店で，たった十五銭の買物ができるか？そこで，海棠の実の密漬けを二罐買いたした。38

104,【花生米】huāshēngmǐ　第四，三 189-20
105,【海棠】hǎitáng　第四，三 189-20
・胡同の入口までくると，何かもの足りぬ気がした。—落花生と海棠の実では晩飯にならぬようだ。38

106,【烧饼】shāobǐng　第四，三 189-24
107,【羊肉馅包子】yángròuxiàn bāozi　第四，三 189-24
・彼はふたたび焼餅をながめ，二十個買った。羊の肉と白菜の餡のはいった肉まんじゅうも，ちょうどせいろからでたところだ。電灯に照らされ白磁のようにまっ白だが，湯気がポッポと立っている。一せいろ分買った。38

108,【包子】bāozi　第四，三 190-3
109,【烧饼】shāobǐng　第四，三 190-6
110,【烧饼】shāobǐng　第四，三 190-7
111,【烧饼】shāobǐng　第四，三 190-8
112,【包子】bāozi　第四，三 190-8
113,【花生米】huāshēngmǐ　第四，三 190-9
・あいそよく銅貨と紙幣と両方でお釣りをくれ，焼餅と肉まんじゅうを紙できちんと包んでくれたうえ，「銅貨とお札両方あった方が，使うのに便利でしょう」といってくれた。李君の胸は，できたての肉まんじゅうより熱くなった。39
・菱(リン)は母親の膝の上でもう眠りかけていたが，焼餅のにおいをかぐと，目をパッチリあけ，くるくると動かした。…（略）…英(イン)—男の子の方—は，焼餅のにおいがするやいなや，一つを腹の中に入れ，さらに焼餅を一口，肉まんじゅうを一口，落花生を一口と，まるで飢えた虎の子と食べっくらをするように食べた。39

114,【烧饼】shāobǐng　第四，三 190-12
115,【包子】bāozi　第四，三 190-13
・李夫人は焼餅を食べながら，目は菱を見ている。菱の分が足りないのではないか，自分が食べなくても，菱には肉まんじゅうを全部食べさせたい，というような目つきだ。39

116,【蜜饯海棠汁儿】mìjiàn hǎitáng zhīr　第四，三 191-1
117,【茶】chá　第四，三 191-2
・お湯がない！ということに気がついた。海棠の蜜漬けの汁をあけてのんでみたがダメだ。彼はあわててしきりに首を上げ下げした。これがアパートなら，一声ボーイを呼ぶだけで，お茶ならお茶，お湯ならお湯を持ってきてくれる。家族を迎えると，やはりめんどうが多い。39，40

118,【甜水】tiánshuǐ　第四，三 191-11
・「…明日水売りが来たら，お宅の分も一荷汲ませましょう。水がめはおありですか？一荷で五厘銅貨六枚，一回ごとでも，月ぎめでもいいんですよ。なかなかうまい水ですから」40

119,【茶】chá　第四，三 191-24
120,【海棠】hǎitáng　第四，三 191-24

・アパートではお婆さんが声をかけてくれるようなことはない。あれは商売だが，これはつきあいだ。お茶をのみ，あくびをし，海棠を食べた。うまい！40

121,【烧饼】shāobǐng　第四，三 191-26
122,【包子】bāozi　第四，三 191-26
123,【花生米】huāshēngmǐ　第四，三 192-1
・腰がすこし痛い。そうだ，責任を果たし，力仕事をしたから腰が痛むのだ。さっきも，右手に焼餅，左手に肉まんじゅう，そしてオーバーのポケットに落花生の大きな袋を入，中指にやかんをぶらさげてきたのだから。40，41

124,【鸡子炒饭】jīzichǎofàn　第四，三 192-2
・だが，とにかく家庭を持ったのだ！アパートならいまごろは，たまごの焼飯を食べ終わり，新聞を見ているか，ひとりきりポッンと腰かけて楊枝を使っているころだ。女房もまんざら悪くはない。41

125,【烧饼】shāobǐng　第四，三 192-4
・菱は小さな手に半分食べかけの焼餅を持ったまま，かわいい肉びょうたんのような顔を母親の胸にあてている。41

126,【海棠】hǎitáng　第四，三 192-14
・「英，もう寝る時間だろう？」
「海棠がまだのこっているよ」英は聞かぬ顔をしていいはる。41

127,【小米】xiǎomǐ　第五，一 193-10
・李君は女性も人間だと考えている。だが，英の母親である彼女は……いや，たとえ一羽のにわとりを飼うにしろ，粟を食べさせなければならない！李君はこんど家族を迎えたことはいささかまちがいだったと思った。一家の長だって？考えれば考えるほど，自分には似あわない。42

128,【茶】chá　第五，一 195-11
・彼らはなるべく，一分でもおそく出勤し，一分でも早く帰る。彼らはぼろぼろ机にぼろ茶碗で，永遠に，無限に，お茶をのみつづける。41

129,【酱肘子】jiàngzhǒuzi　第五，二 196-12
130,【茶】chá　第五，二 196-13
・呉さんは腰をまっすぐ伸ばし，味噌漬けの豚の足よろしくの文字を書いている。邱さんはお茶をのみ，たばこをふかし，苦悶をかみしめたような顔をしているが，目はもっぱら腕時計を見ている。45
◆比喩，豚の足の肉を大きい切れのまま醤油と香辛料を加えて煮つけ，冷えてから小さい切れに切って食する．一種の“涼菜”で前菜として供する。

131,【白面】báimiàn　第五，二 197-8
・麦作がどうなろうと，百姓が苦しかろうと，すべて北京からは遠すぎる。世界中の麦が不作でも，北京に小麦粉がなくなることはない。45

132,【酒】jiǔ　第五，二 198-1
・「おれには宰相の才はあるが，宰相の運がないんだ！」彼は二，三杯酒をのむと，こんなことをいって嘆息する。46

133,【酱肘子】jiàngzhǒuzi　第五，二 198-6
134,【酱肘子】jiàngzhǒuzi　第五，二 199-7
・呉さんは軍人の出で，はなはだ一本気である。味噌漬けの豚の足よろしくの文字をものにしたばかりだが，今度は妾をものにしたいと考えている。

46

・呉さんの拳骨ははなはだ大きい。…たとえば太極拳の「雲手」（両手を飛雲のように，右や左に出し，敵の腕を取ったり胸をつく型）と「倒攆猿」（猿のように飛びかかる敵を後退して引きつけてから打つ型）の技を筆端に運用すれば，味噌漬けの豚の足体の文字が書ける。47

135,【落花生】luòhuāshēng　第五，三 202-14

・「じゃ，行ってくるよ，菱」

「ラッカチェイを買いに行くの？」菱はとうちゃんがでかければ，かならず落花生を買ってくると思っている。50

136,【蒲包果子】púbāo guǒzi　第六，一 203-1

・がまの葉で編んだ袋（蒲包といって贈答用に使う）いっぱいのくだもの，風景写真四枚，為書のない掛軸と対聯，それに子ども用靴下半ダース，などを持ち，完全武装で張奥さんは李夫人をたずねてきた。51

137,【烤糊了的苹果】kǎohúle de píngguǒ　第六，一 204-8

・義母のことを「乾媽」というが，たしかに「乾」でひからびている。笑うと顔全体にしわができる。焼きりんごの皮のように赤くてくしゃくしゃだ。52

138,【茶】chá　第六，一 205-12

・「夕食を食べていらっしゃいよ，奥さん」

…（略）…

「いや，いや，またにしますよ。仕事が山ほど家で待っていますから。じゃ失礼しますよ」といって，またお茶をのんだ。53

139,【茶】chá　第六，一 206-22

・「わたしはまだ若いですよ。四十九になります。失礼しましたが，あなたのお名まえは」

「馬といいます。まあ，お茶もさしあげないで，さあ，おはいりになって」

「いえ，また今度ゆっくりお邪魔いたしますわ，では」

張奥さんと李夫人はまるでお婆さんの実家のいもうとのようだった。54

140,【花生】huāshēng　第六，三 210-14

・「…（略）…　ちょっとおいで，菱ちゃん，英ちゃん，ここに十枚銅貨があるから，五枚づつおわけ。さあ，ポケットに入れて，街に行ったら落花生でも買うんだよ」十枚の銅貨は，熱気を帯びたまま子供たちのポケットに入った。57

141,【苹果】píngguǒ　第六，三 211-11

142,【苹果】píngguǒ　第六，三 211-17

・東安市場の門をはいると，菱と英はたちまちいっせいにりんごをせがんだ。李君は困った。

…（略）…しかし，問題は問題を解決した，菱はおもちゃ屋を見ると，りんごのことなどすっかり忘れた。58

143,【蜜柑】mìgān　第七，一 215-9

・天真はハンサムだが，頭はからっぽだ。…（略）…背はすらりと高く，腰は細く，足は長く，洋服を着ている。ダンスは「見る」のが好きだ。いかにも理想をいだいているような顔つきをし，眉をひそめて鏡をながめ，一日中みかんを食べている。62

144,【鸡汤煮馄饨】jītāng zhǔ húntun　第七，一 215-22

・はりきってにわとりのスープのワンタンをこしらえたが，息子は外出したまま食事にも帰ってこない。張奥さんは食器を洗いながら涙をこぼした。だが夫に涙は見せられない。62

145,【山査糕】shānchágāo　第七，一 216-6
・「おなかはどうなの？」母親は，息子の耳が寒さでさんざしの実の砂糖煮のように赤いのを見て，…　62

146,【蜜柑】mìgān　第七，一 216-20
・息子はナイト・キャップをかぶり，ベッドのへりにこしかけると，「ひとつがいの愛の小鳥」の歌を口ずさみながら，みかんをむきはじめた。みかんの汁の甘さに，無表情な笑いを浮べ，自分は映画スターそっくりだ！と悦に入っていた。63
◆原文は，「巴里穆尔」。ジョン・バリモア（1882～1942），米国の映画スター。

147,【窝窝头】wōwōtóu　第七，二 217-11
・だが結婚は難題だ。張兄貴がここ四，五年来いちばん頭をなやましてきたのはこれである。自分自身これまでの半生，仲人をしてきながら，自分の家にもしできそこないの嫁をもらったら，それこそとり返しのつかぬ失敗だ！　63
◆意訳，粗食から「田舎者」を指す。竹中訳では「不都合な」とある。

148,【涮羊肉】shuànyángròu　第七，二 218-8
149,【香菜】xiāngcài　第七，二 218-9
150,【老醋】lǎocù　第七，二 218-9
151,【火锅】huǒguō　第七，二 218-10
・もちろん彼は，銅貨一枚だってどぶにすてたことはないし，張奥さんも一円だってムダ使いしたことはない。だが一度の羊の水たきを御ちそうすれば，五，六円はかかる。客をよべば，一科員ともなると客をよばぬわけにはいかぬ—香菜（こえんどう）や醋に至るまでいちばん上等な高いものを買わねばならない。もちろん五，六円の水たきは，一テーブル十二円の料理—酒代，飯代，俥代からボーイのチップまでいれると二十円ぐらいかかる—に比べれば，ずっと節約になる。だが五，六円はやはり五，六円で，しかもしょっちゅうとなればたまらない。64
◆「香菜」コリアンダー。

152,【冰激凌】bīngjīlíng　第七，二 219-1
153,【桔子】júzi　第七，二 219-1
154,【冰激凌】bīngjīlíng　第七，二 219-2
・金をもらうと，彼は三，四円かけて散髪し，半ダース単位でアイスクリームを食べ，少なくとも十個以上のみかんを食う。外国の青年はみんな，アイスクリームとフルーツが好きだと聞いているからだ。　65

156,【豆浆】dòujiāng　第七，三 219-3
157,【油炸圈儿】yóuzháquānr　第七，三 219-4
158,【洋白糖】yáng baiting　第七，三 219-4
159,【甜浆】tiánjiāng　第七，三 219-4
160,【八宝酱菜】bābǎo jiàngcài　第七，三 219-5
・彼は，父親が役所にでかけても，まだ例の虫のよい夢を見ていた。十時半になって，やっと起きた。母親は彼のために，わざわざ豆乳を注文したり，小さくて歯切れのよい油炸果（ユーチャークオ）（中国風の甘くないドーナツ）や白砂糖を買った。—息子は甘い豆乳がきらいかもしれないと思って，べつに老天義（ラオテンイー）（有名な漬物店）の八宝酱菜（バーバオチアンツアイ）（五目味噌漬け）も用意しておいた。65
◆「酱菜」は，醤油漬物でお粥やマントウとともに食する。北京には六必居（大栅欄），天源（西単），

天義順（王府井）の三店が老舗（現存）。ほかに有名店として天章，東天源，天義，宝瑞があった。

161,【豆浆】dòujiāng　第七，三 220-12
162,【豆浆】dòujiāng　第七，三 221-3
・母親は掃除をおえると，息子は豆乳などをきれいに平らげていた。66
・母親はあとをいわずに笑った。息子はニヤッとまた歯を見せて考えた。ママはおそらく交渉をひきうけてくれる，するともっと笑顔を見せるべきだ。彼はもっと口をあけ，豆乳くさい息をすいこんだ。67

163,【香槟酒】xiāngbīnjiǔ　第八，三 228-4
・「…（略）…だがぼくは早くきすぎたよ，どうも軍人には，役人のしきたりがわからない。ボーイ。スリー・キャスルを持ってきてくれ。あのころ，軍隊じゃ，スリー・キャスルだのシャンペンだのいくらでもあった。いまじゃ……」と呉太極（タイチー）は腰をピンとのばしたまま椅子に腰をおろし，過去の栄光を思いだした。73
◆原文「大三砲台煙」は当時，もっとも高級な外国煙草（英国ウイリス社が上海で製造）でメリケン粉一斤より値段が高く，庶民は手が届かなかったといわれる。

164,【白兰地】báilándì　第八，三 228-11
165,【白兰地】báilándì　第八，三 228-12
・邱さんは軽い食べ物をいくつか注文し，「前もってちょっと腹ごしらえをしておこう。あとでブランデーをのむと，あんまりすきっ腹ではねえ」と言明した。李君はブランデーなど注文する気はまったくなかったが，邱さんにこう先手をうたれると，注文しないわけにはいくまいと思った。74

166,【白兰地】báilándì　第八，三 229-23
167,【酒】jiǔ　第八，三 229-23
168,【白兰地】báilándì　第八，三 230-9
169,【酒】jiǔ　第八，三 230-10
・「ブランデーを開けてこい！」
酒がくると，彼はまず李夫人に一杯ついだ。李夫人は「いえ，いえ，わたしはのめません」としきりにいいながら，それでも立ち上がってグラスを両手でうけた。
「坐ってるんだ！」と李君はのどもとまででかかったが，何もいわずにつばをのみこんだ。75
・彼はこれまで酒をのんだことがないのに，ガブリと一口にブランデーをあおった。李夫人はみんなが—そして夫までも—酒をのんでいるのを見て，自分も一口のんでみた。75
◆役所の同僚たちの前で，田舎者の夫人の失態を際立たせるため，口にしたことのない洋食や洋酒を登場させている。

170,【肉】ròu　第八，三 230-12
・菱はナイフやフォークを使ったことがないので手づかみで食べだした。母親はさすがにナイフやフォークを捨てるわけにはいかず，フォークで肉をおさえ，ナイフで力いっぱい肉を切ろうとしたが，皿から肉が逃げ出しそうになってしかたがない。… 75

171,【酒】jiǔ　第八，三 230-16
・呉さんはすこし酒がまわると，とたんに口の動きが活溌になった。75

172,【肉】ròu　第八，三 230-24
・李君は，まるで電気椅子に坐っているように，全身ムズムズと落ちつかない。さいわい英がよこにいて，あれこれと質問してくれる。そこで李君

はいっそ正面の彼女の方は見ないことにし，まるで牛でも屠殺するような力をこめて，英の肉を切ってやった。76

173,【酒】jiǔ　第八，三 230-25
174,【白兰地】báilándì　第八，三 231-4
175,【白兰地】báilándì　第八，四 231-1
・趙が李君にグラスをあわせ，いっしょに乾杯しようという。李君は顔もあげず，二口ぐらいでグラスの酒をのみほした。76
・彼女が手をのばしてグラスをとろうとすると，張兄貴はまた口をだした，
「呉さん，ひとつ奥さんにかわってのんであげませんか。ブランデーは強すぎる。奥さんはまだ子どもさんたちのせわをしなきゃならないんだからね」76
・どうして家に帰ったのか，李(リー)君はわからなかった。ブランデーが彼の目をすっかりふさいでいたのである。途中つめたい風が酔いをさましてくれたので，彼は自分の家と張(チャン)兄貴に気がついた。張兄貴の顔を見たら，腹の中の怒りが，酒の力を借りて，カッとつきあげてきた。76
◆酒：原文「酒気」。

176,【开水】kāishuǐ　第八，四 233-1
・李君はストーブのそばにすわって，やかんいっぱいの水を全部のんでしまったが，まだのどががわいていた。78

177,【牛奶】niúnǎi　第九，一 235-8
178,【点心】diǎnxīn　第九，一 235-8
・おや，単牌楼にきた。一軒のミルクホールがもう看板をだし店を開いている。軒のあたりにかすかな朝の日光がさしこんでいる。中へはいる。ミルク一杯に軽い食物をちょっと食べたら，胃の中がすこし痛んだ。80

179,【洋饭】yángfàn　第九，一 237-21
・自分が，いくら洋食を食べたことがないからといって，恥さらしは結局恥さらしだ。だから夫は朝早くプイとでて行ってしまった。82

180,【大块肉】dàkuàiròu　第九，一 238-12
・「かあちゃん，いっしょに行こう。今日もまたあのデッカイ肉を食おうよ。ぼくはこっそりフォークをもってくるんだ，面白いぞ」83

181,【大块四方墩肉】dàkuài sìfāng dūnròu
第九，二 239-4
182,【白馒头】báimántou　第九，二 239-4
・呉夫人の体つきは，肩がいかり腰がふとく，まるで，夫と同じ武術家のように見える。しかし足が半纏足（途中で纏足をやめた足）なので，これでは唐手などできそうもない。…（略）…体全体がまるでまないたのように四角い大きな肉のかたまりだ。うえにひとつ白いマントウのような顔がついているが，石灰水の中に三日もつけたと思われるほど，ひじょうに白い。…　84
◆典型的な食物を使った比喩。

183,【酱萝卜】jiàngluóbo　第九，二 241-8
・まないた夫人は張奥さんに，北京の味噌漬大根はどこの店がおいしいかたずねていた。85
◆醤油漬けの大根。

186,【皮蛋】pídàn　第九，四 244-20
・だが彼女は泣かなかった。彼はますます腹が立った。「このうすのろ，いたくもかゆくもない無神経なうすのろめ！こんにゃくのような奴だ」彼は心の中で罵った。89-90

◆「ピータン」を「うすのろ」,「こんにゃく」と
意訳。